



## 吹田西ロータリークラブ

国際ロータリー第2660地区

## ウィークリー 2020-2021



創立 1980.6.12

事務所 〒564-0051 吹田市豊津町9番40号 カリーノ江坂1階 TEL06-6338-0832 FAX06-6338-0020

URL <http://www.suita-west-rc.org> E-mail [src@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:src@jasmine.ocn.ne.jp)

例会場 新大阪江坂東急REIホテル TEL06-6338-0109 例会日 毎月曜日 18:00~19:00

会長：由上時善 幹事：木田昌宏 会報委員長：清水大吾

4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

## 本日の例会

第1800回例会 令和3年3月22日

今週の歌 「蛍の光」

卓話 「企業におけるSDGsへの取り組み」  
西村 元秀 会員

## 次回の例会

第1801回例会 令和3年3月29日

今週の歌 「どじょっこふなっこ」

卓話 「私の職業」 瓜生 晴彦 会員

## 前回の記録

## 会長挨拶

由上会長



皆さん、こんばんは！

東日本大震災が起こって3日後には10年となります

ので「津波」の話を致します。

「稲むらの火」(教本)の要約

村の高台に住む庄屋の五兵衛は、地震の揺れを感じたあと、海水が沖合へ退いていくのを見て津波の来襲に気付く。祭りの準備に心奪われている村人たちに危

険を知らせるため、五兵衛は自分の田にある刈り取ったばかりの稲の束(稲むら)に松明で火をつけた。火事と見て、消火のために高台に集まった村人たちの命は救われました。眼下で、津波は猛威を振るう。五兵衛の機転と犠牲的精神によって村人たちはみな津波から守られた。

この話の基になった事実があります。

1854年(安政元年)11月4日、5日の2回にわたって襲った南海の大地震に際し、偶然故郷の紀州・広村(現在の広川町)に戻っていた梧陵は、海水の干き方、井戸水の急退などにより、大津波が来ることを予期しました。

梧陵は村民を避難させるため、田圃に積んであった収穫された稲束(稲むら)に火を投じて急を知らせ、村民の命を救ったといえます。この行為に感動した明治の文豪・ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)は、

「仏の島の中の落穂拾い」という短編集の中で、‘A Living God (生ける神)’として梧陵を紹介しています。のちにこれをもとにして、小学校教師であった中井常蔵氏が著した物語「稲むらの火」は、昭和12年から昭和22年まで国定の小学国語読本に採用されました。

その後の続きがあります。

梧陵の活躍は人命救助だけに留まりません。津波の壊滅的な被害を受けた広村の村民のために、救援家屋の建設や農漁具の調達などを行い、離村を防止しました。また、将来の津波被害を防止するため、1855年(安政2年)から4年間、銀94貫を費やし、堤防の建設を進めました。全長600m、高さ5m、海側に松、陸側に榎(ハゼ)の木が植えられたその姿は、今でもその景観をたたえており、史跡に指定されています。

この梧陵とは濱口梧陵のことでヤマサ醤油7代目の当主です。和歌山県有田郡広川町に「稲むらの火の館」、「濱口梧陵記念館」があります。このような活動が出来るのは経済的余裕があるからですがロータリークラブでも地域限定なら小さなことは出来ると思います。ひとつのクラブで難しければ吹田ロータリークラブや吹田江坂ロータリークラブと共同でやることも可能です。皆さんのコロナ禍の中で活動できることを提案して下さい。

最後に残念なお知らせがあります。昨年12月に阪本勝彦バストガバナーが退会されました。耳が聞かないとのことでした。最後の挨拶をされる予定でし

たがコロナ禍の中で報告が遅くなりました。コロナが落ち着けばお声を掛けご挨拶をお願いしたいと思います。

## 📅 幹事報告

木田幹事

来週3月15日は休会日です。

3月22日は通常例会です。食事も準備します。Webでの例会参加もできます。

後日出席確認をメールにて配信しますので回答をお願いします。

## 📅 出席報告

出席委員会 村井委員長

●会 員 数 45名

出席会員数 42名(内Web参加22名)

●来 客 0名 本日の出席率 97.67%

●3月1日の出席率(メーキャップ含む) 100%

## 📅 エドヒガン桜再植樹報告

井伊パスト会長

RI100周年記念事業(北摂5RC共同事業 平成18年4月)として片山ポケットパークに植樹され、平成29年3月23日伐採されたエドヒガン桜が当初の予定通り令和3年3月26日(金)に開園予定されます。

完成写真が吹田市水道部より送信されてきましたので、5RCの皆様方のご協力のお礼と共にご報告致しました。

## 吹田西RCの国際奉仕プロジェクト

小林 哲 パスト会長  
木下 基司 会員



我がクラブの国際奉仕の歴史については、昨年発行された40周年記念誌に詳細が記載されています。残存している資料や写真類を整理して纏められた貴重な報告書ですので是非ご一読下さい。今日お話しする内容は昨年10月に開催された当地区の国際奉仕委員長会議で私が発表したものですが、国際奉仕のあり方については各クラブ独自の考え方にに基づき多様な進め方をされていますし、又そうであるべきと思います。ただ、吹田西RCの奉仕事業は国際奉仕のみならず、全てが謂わば会員の手作りであることに大きな特徴があると思います。特に国際奉仕は他の団体を介在させることなく、直接現地のRCと共同で事業を行っています。我々は自分の足でその場を訪れ、自分の目で見て、自分の耳で、直接当事者に話を聞き、事情が許す限り毎年代表団を派遣して、継続性のある事業を推進しています。

但し残念ながら今年度は我がクラブの40周年である

にも係わらず、コロナ禍のために海外クラブとの相互交流が出来ませんでした。ワクチンの接種が進んでも、コロナ以前の生活に戻れるかどうかは不明ですし、国際奉仕のあり方も大きく変えざるを得ないかも知れません。時代と共にロータリーの奉仕活動そのものが変わっていくのは当然のことだと思いますが、今までとは違った方法での国際奉仕のあり方を検討していただくためにも、我がクラブに於ける国際奉仕の歴史をもう一度繙いてみたいと思います。

吹田西RCは1980年6月に設立。今年の6月に40周年を迎えましたが、創立5周年を目処に海外との姉妹クラブの提携構想が持ち上がり、ちょうど時期を同じくして吹田市がスリランカのモロトワ市と姉妹提携を行い、また市内に総領事館が開設されていた事もあり、領事から紹介されたコロンボセントラルRCと交渉を進め、1987年に姉妹クラブの調印をコロンボで行いました。同時に世界社会奉仕事業（WCS＝現在の国際奉仕事業）として現地の恵まれない人たちのための住宅建設プロジェクトを開始。その後毎年訪問団を派遣して寄付を続行すると共に、継続して現地の確認とトレースを行い、1990年には当時のスリランカの大統領から感謝状を頂きました。元は荒れ地であった場所に70戸の住宅が完成し、地名を冠したビスワクラ・ロータリー村と命名され、その後も村内の児童公園の開設や各家庭に掛け時計の寄贈を行い所期の目的を達したとして、1995年に事業を終了し、新たな事業として1996年よりキャンディ市郊外に職業訓練センター建



設のプロジェクトに取組み、2003年に完成、2004年にパソコン10台を寄贈してプロジェクトを終了しました。その間、現地の灌漑用貯水池浚渫工事や地域環境保護プロジェクトとしての空き瓶回収事業をおこなってきましたが、双方のクラブの会員変遷に伴い、新たな海外クラブとの提携が望まれ、紆余曲折の末、タイのナコンパノムRCと友好クラブ関係を結んで、以来15年に渡りタイ東北部のナコンパノム県の貧困地区にある公立学校にクリーン・ウォーター・プロジェクトを実施、当時のマッチンググラントも利用して、現在まで計29校に冷却器付きの浄水装置を設置し、生徒と教師の健康を維持し、継続的教育の実行に大きく寄与していると共に当該学校の地域住民にも開放されています。このプロジェクトに於いても、毎年代表団を派遣し、現地のトレースを行い確実に事業が行われているかを我々自身で確認していますが、プロジェクト開始数年後からタイ王国国防軍海軍次官のKiatisak提督の全面協力を取り付け、代表団の安全確保、移動手段的確保や現地学校での式典設営などに便宜を図って貰っていることは特筆すべき事だと思います。

様々な苦労や壁にぶち当たりながらも現地クラブとの交流を通じ相互信頼と尊敬と友情を育みながら、一步一步着実に事業を進めていくことこそロータリーの国際奉仕プロジェクトの原点であり真価であると思っています。現地で我々を迎えてくれる子供達の喜びの眼や笑い声が、事業の達成感と次年度の事業推進への

意欲をもたらしてくれます。

最後に、エピソードを一つ。2011年、ナコンパノムへの訪問団が日本を出発しようとしていた直前に津波を伴う東日本大震災が起きました。逡巡の末、我々は予定通り訪タイしナコンパノムの当該学校でクリーン・ウォーター・プロジェクトの贈呈式に出席。その際に、その学校の生徒達から、津波の被害を受けた東北の子供達のために持って帰って欲しいと託されたものがあります。それは硬貨や少額の紙幣で満たされた硝子瓶でした。1パーツ=約3円。貧しい村の子供達が一日の小遣いの中から抛出してくれたのでした。それを受け取った訪問団の一人は、飛行機の中もその硝子瓶を胸に抱きながら帰国の途についたのです。こんなに小さな硝子瓶がこんなに重いなんて……。

次回 四月二十六日(月曜日)  
兼題「桜・入学」

第四〇二回 吹田西ロータリークラブ句会  
兼題「啓塾・雛祭」

夜もすがら子らに作りて紙雛 外人の膝着きて見るひな飾り 一年は眠り足らずや雛人形 啓塾や彼岸会回向の案内書	まさお とよよし 山牛 みかよ
--	--------------------------